

すみれ
堇

ハーブ研究家 桐原春子さん

昔から堇の花が大好きでした。どんな堇にも心が惹かれますが、松本の実家の庭に咲く匂い堇にはその花の形も色も香りもドキドキするほど魅了されました。父の勤務の関係で小学校4〜6年は南信州飯田で過ごしました。中1の春に松本に戻った時、まだ庭に咲いていた匂い堇の様子に心打たれ、花瓶に生けて勉強机の上に飾つてつくつく眺め、

鼻を近づけてはその香りを楽しみ、以来ずっと心惹かれています。

ハーブを研究するようになって、この堇がスイート・ヴァイオレットといい、様々な薬効を持ち、かつては花が、今は葉が香水の材料になることを知りました。今、庭の至るところに植えていますが、ランナー

ではびこり、春は紫の花でいっぱいになります。スイート・ヴァイオレットは香水の産地である南フランスのグラーヌ近辺で大量に栽培されています。また南西フランスのツールーズは堇の町として有名で、毎年3月には堇祭りが行われます。この堇はスイート・ヴァイオレットの八重咲きのもので、これもまた強く香り



スイート・ヴァイオレットとローズマリーの花、ペパーミント・ゼラニウムで小さな花束

ます。航空会社勤務だった夫がこの町に長期出張した時、お土産は堇の香水や堇の花のお菓子や人形などトランクにぎっしり。香水は円柱形の堇の絵柄の箱に入っていて、彫が美しい大ぶりの瓶で、外からも優しく香るものでした。そしていつしか私は堇の絵柄があるものを収集するようになっていました。

昨年、姉の熊井明子
が小説『夢のかげら』（春秋社刊）を出版しました。短編のつぱりのルーヴル美術館での男女の物語『堇の女』を読んで、ツールーズの堇の香水のことをふと思いました。

30年経つても瓶の外からも香り、思い切つて封を切り手首の内側にすりこむと、忘れていたことを思い出させるような複雑な甘い香りが漂い、残り香は庭で摘んだばかりのスイート・ヴァイオレットに似たもので、しばらく使ってみたくありません。

ところで6年前の春、私には飛び切り嬉しいことがありました。次男に長女が誕生したので、命名と書かれたファックスが届いたときには、なんと「堇」と書かれていたのです！



きりはらはるこ：長野県松本市生まれ、松戸市在住。英国王立園芸協会会員、英国ハーブ協会終身会員。現在、読売・日本テレビ文化センター京葉などで「ハーブのある楽しい暮らし」の講師を担当。著書に「とっておきの英国庭園」（千早書房）など多数。

<http://www.geocities.jp/haru87herb/>